

道博協ニュース

第19号

発行所 北海道博物館協会
事務所 札幌市白石区厚別町小野幌
北海道開拓記念館内
電話 011-(898)-0456

第二十六回北海道博物館大会および 昭和六十二年北海道博物館協会総会

開催日程 (増毛町)

第一日 (六月十二日)

北海道博物館大会他

受付 (九時~九時三十分)

開会式 (開会宣言、主催者挨拶、歓迎の辞、祝辞、開会宣言、オリエンテーション)

特別報告「日本における博物館の現況と課題」日本博物館協会専務理事・毛利正夫

講演「北海道の方言について」札幌大学講師・石垣福雄先生

記念写真撮影および昼食

シンポジウム主題「博物館と学校教育の提携をどうすすめるか」司会者 静修短期大学教授・北川芳男、助言者 北海道立教育研究所社会教育計画研究室長・藤井武、北海道開拓記念館学芸部長・中村 斎

提言①小樽市青少年科学技術館

学芸員・佐藤郁雄

①主題を考える前に●教育機関としての博物館と学校

②提携できる部分はどこか●学校の教育の立場から●博物館の教育普及活動の立場から●共通性の有る部分

③提携の方法●博物館から●学校から

④小樽市青少年科学技術館の場合どんな活動があるか

提言②斜里町立知床博物館

その他

提言③室蘭市民俗資料館

学芸員・久末進一

①室蘭の現況●鉄鋼不況と合理化の嵐の中で、子供の人間性をいかに育てるか

②地域志向型の室蘭市民俗資料館●縦軸に地域密着の施設として室蘭港百年の郷土史●横軸に生活と生産の技術継承を基礎体験の中に再構築する

③学校教育との相互浸透の模索例●郷土副読本「私たちの郷土」(市教委)と「室蘭の文化遺産」(民俗資料館)の発行●資料と学芸員の学校派遣及び学校関係者への講師依頼●資料館より

の出前としての巡回展や企画展の学校への貸出し●資料館における学校クラブ活動の実習●修学旅行の目的多様化現象への対応

④自然保護や文化財保護のボランティア活動を通じての体験学習

⑤実現できないでいる課題

懇親会 (十九時終了予定)

第二日 (六月十三日)

北海道博物館協会総会他

受付 (八時三十分~九時)

62年度北海道博物館協会総会

①昭和61年度事業報告

②昭和61年度決算・監査報告について

③昭和62年度事業計画案

④昭和62年度会計収支予算案について

⑤北海道博物館協会会則の改正について

⑥北海道博物館協会役員の改選について

⑦第27回北海道博物館大会の開催地(函館)について

⑧第35回全国博物館大会の釧路市開催について

⑨その他

史跡・施設見学(予定)

増毛町エネルギー科学館、増毛町自然エネルギー関係施設(波力発電・バイオマス)、増毛町アワビ中間育成施設、巖島神社、秋田藩マシケ陣屋跡、秋田藩台場跡、清酒「国稀」醸造元・本間家(途中で昼食)

解散 (十四時終了予定)

館園紹介

北海道立近代美術館

北海道立近代美術館は、昭和五十二年七月、札幌市の中心部、知事公館に隣接する一角にオープンしました。合掌造を思わせるユニークな建築は、鉄筋コンクリート造、地下一階、地上三階、延床面積八、七三七㎡で、広い前庭には散策路、池が設けられ、さらに風などで動く彫刻を配し、近代美術館にふさわしい環境づくりがなされています。



(近代美術館外景)

館内に入ると、吹抜けの大きなエントランス・ホールがあり、正面にブルデルの彫刻「力」、ブラブハカール・ナイク・サタムのタビストリ「生—Life after Dark」が展示されています。右手に特別展示室、左手に常設展示室があり、二階展示室と結ばれています。二階には、前庭を見わたせるロビー、レストラン、売店、幼児室、映像室、造形室などがあります。講堂はエントランス・ホールの奥、一階と二階のスペースを利用してつくられています、二四〇名を収容できる階段式ホールとなっています。

常設展示室では当館の所蔵品を年間五〜六回展示替えして系統的に紹介していますが、そのつどテーマやコーナーを設けて、バラエティーに富んだ展示がなされています。所蔵品の柱となっているのは、明治以降の北海道の美術、日本近・現代の美術、海外の近・現代の美術であり、ジュエル・バスキンを中心とするエコール・ド・パリの作品、アー

ル・ヌーヴオー期から現代に至る国内外のガラス工芸作品は、他に類をみないすぐれたコレクションとして高い評価を得ています。特別展示室では、国内はもちろん、海外のすぐれた作品を紹介する展覧会が年間八〜十回開催されています。世界のガラスコンペである「世界現代ガラス展(トリエンナーレ)」、子どもを対象としてそれぞれ夏休みと冬休み期間に開催される「サマー・ミュージアム」と「子どもと親の

美術館」などは当館特別展の中でもユニークな企画となっています。また、道内各地での移動美術館、巡回展も行われ、幅広い活動が展開されています。さらに、所蔵品や展覧会と関連した各種の講演会、講座、解説をはじめ、質問コーナーなど自由に利用できる対話の場を設けています。常設展示室ではスライドを使った展示室講話、ビデオ、スライドによる解説のほかに、学芸員、ボランティアによる作品解説が行われ、来館者の美術鑑賞の一助となっています。また、定期的に美術映画鑑賞会が開かれてはいるほか、フィルム・アート鑑賞会、ビデオ・アート鑑賞会も開催され、映像芸術も積極的に紹介しています。こうした多彩な活動を通じて、北海道立近代美術館は、地域社会のあらゆる年齢層の人々に、自ら学び楽しみ、かつ考える場を提供し、北海道の芸術的土壌を大きくむ換点のひとつとしての役割を果たしています。



(常設展示室)

《北海道立近代美術館案内》所在地・札幌市中央区北一条西十七丁目 電話番号・〇一一(六四四)六八八一

開館時間・午前十時〜午後五時(入館は午後四時三〇分まで)

休館日・月曜日、一月一日、十五日、二月十一日、三月二十一日の祝日、年末年始(十二月二十六日〜一月五日)、展示替等による臨時休館はそのつど広報します。

常設展観覧料・一般二百五十円(団体二百円)、高・大生百五十円(百円)、小・中生百円(七十円)、()内は十名以上の団体料金。

※特別展は別料金

交通案内・地下鉄(東西線)西十八丁目駅下車④番出口徒歩五分、国鉄バス・中央バスで西十七丁目下車徒歩一分

(北海道立近代美術館 主任学芸員・浅川 泰)

※浅川氏は、四月一日付で北海道立旭川美術館学芸課長に

なられました(事務局)。

館 園 紹 介

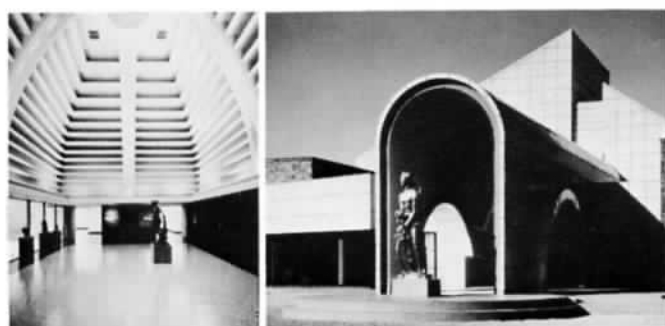
北海道立函館美術館

北海道立函館美術館は、旭川美術館に次ぐ道立の地方美術館として、昨年の4月、函館に建設され、9月にオープンしました。開館記念展の「ルノワールと印象派の巨匠たち展」を皮切りに、これまで所蔵品展を含めて6回の展覧会を企画、実施し、既に5月現在で13万人のご利用をいただいております。

当館は、国の特別史跡、五稜郭公園の隣りに位置し、市立函館博物館分館や、美術館正面の北洋資料館などとともに函館の文化ゾーンを形づくっております。

美術館前庭には、ブルーデル「サツフォー」、館正面に、モニュメントとしてブルーデルの「自由」が設置され、来館者を出迎えています。また、館内メインホールには、ロダンの代表的彫刻の一つ「衣をまとったバルザック」、そしてホール中央にはルノワール「勝利のヴィーナス」が優美

な姿をみせており、そのほかブルーデルのペートーヴェン連作など、西洋近代彫刻が常時展示されています。これらの彫刻は、館内ロビーの日本近代彫刻と合わせて、全て無料でご覧いただけるようになっております。



このほか、当館では、道南にゆかりのある作家の作品を中心に収蔵しており、中でも代表的所蔵品の一つといえるのが、横山松三郎の「菊」で

す。横山松三郎は、函館が、ペリー来航後、横浜や長崎とともに開港都市となつて、いち早く欧米文化を導入した当時、少年期を函館で過ごし、来函するロシアやアメリカ艦隊に同乗していた写真技師や画家たちから、油彩画などの手ほどきをうけて後に日本近代洋画と写真術の先駆者となりました。絹地に油彩で描かれた「菊」は、その横山松三郎の数少ない遺作の一点であり、近代洋画史の上でも貴重な作品であります。

道南ゆかりの作家では、この横山松三郎をはじめとして、函館に生まれ、行動美術協会で活躍、北海道の洋画壇においても指導的役割を果たした風景画家、田辺三重松があげられ、その初期から晩年にいたる作品を収蔵しています。

そのほか、大正10年、北海道で最初に結成された美術団体「赤光社」の創立会員であり、また一水会を中心に活躍した池谷寅一や、アイヌ・ユーカーラシリーズで知られ、今年、当館で回顧展を開催した岩船

修三、そして国画会々員の橋本三郎などの作品も多く収蔵されています。これら道南ゆかりの作品は、田辺三重松／道南ゆかりの作家コーナーで、常設展示しております。

また、当館の特色あるコレクションとして注目されるのが、鷗亭コレクションです。これは、松前町出身の書家・金子鷗亭氏が、永年にわたり蒐集した東洋美術と書のコレクションの寄贈を受けたものです。当館では特別に鷗亭記念室を設け、鷗亭の書作品と合わせて、年間4～6回の展示替をしながら、コレクションのご紹介をしています。その上、近・現代を代表する全

国の書家の書作品も収蔵するなど特色あるコレクションとなっております。

教育普及活動としては、特別展にあわせた美術講演会を随時開催しているほか、美術映画会や、冬期に連続5回で行なう美術講座を予定しております。

当館の特色あるイベントとして、好評を得ているのが、特

別展に合わせたアトラクションであります。これは、「小さな演奏会」を特別展の企画に関連させて行なうもので、これまで、館内ホールにおいて「琴と尺八」や「マンドリン」など3回の演奏会を開いております。今後、親しみやすい芸術鑑賞の場を目指し、一層充実した活動を展開したいと考えております。

北海道立函館美術館概要

所在地・(040)函館市五稜郭町37番6号
電話番号・〇一三八(五六)六三一

開館時間・10時～17時
休館日・月曜日、祝日開館の振替日、年末年始

常設展示観覧料・一般100円
(団体80円)、高大生60円
(40円)、小中生40円(30円)

交通案内・市電五稜郭公園前下車徒歩7分、市営バス五稜郭公園前下車徒歩3分、函館バス公園入口下車徒歩3分、タクシー函館駅より約10分

(北海道立函館美術館)

学芸員・五十嵐聡美

館 園 紹 介

神 恵 内 郷 土 資 料 館

神恵内村郷土資料館は、昭和六十二年四月二十八日に鉄筋コンクリート造り平家建、三百四十八㎡で、外観はニシン漁場の番屋をイメージしてあり、内部には先史から現在までの歴史的遺産を四百点程展示して開館いたしました。

『いま、甦えるカモエナイ』

資料館のテーマとした神恵内村は、北海道が「えぞ地」と呼ばれて松前藩が支配していた宝暦元年（一七五一）に「フルウ場所」として歴史の扉が開かれました。

神恵内村の語源は「カムイ・ナイ」で、アイヌの人達が地形がけわしくて人が近寄り難いところを「カムイ」と名付けたとあり自然は神秘的であり、特に「西の河原」を中心とした海岸は「カムイ」の名にふさわしい景勝地です。この郷土資料館は、わたしたちの村を築いてきた先達の汗と涙に感謝するとともに、大いなる遺産を将来に伝える

ために役立てたいと念願して開館いたしました。



展示の構成は、九つのコーナーから成り立っています。

ホール前面の「ようこそ神恵内村郷土資料館へ」からは

じまり、(一)私たちの村・神恵内では、

神恵内村の地勢、気候、地史、動植物等を解説文、図表で説明。

・神恵内村地形模型Ⅱ全村の地形を模型で表現し海中

部分も表現。・神恵内村の動物と植物Ⅱ小動物のはく製を

ステージ上に、草花、自然等を写真等で説明。(二)カモエ

ナイのあけぼの、土器、石器、骨角器Ⅱ観音洞窟から発掘さ

れた様々な遺物を中心に数千年前、この地に住みついた古

代人の姿を想像イラスト、解

説図等で紹介。(三)場所のはじ

まり、慶長年間、松前藩が

場所を設定してからの和人の

来往や、場所請負人による漁

業開発の姿を、古文書を中心

に紹介。(四)ニシン漁のあゆみ、

ニシン漁ジオリマⅡ最も盛

んだった頃のニシン漁の姿を

ジオリマで具体的に紹介。・

漁場の生活Ⅱニシン漁のため

に、かなりのヤン衆が渡って

きていたが、彼らの生活ぶり

を、漁の準備から始まり、帰

郷するまでを解説。・漁法の

変遷、ニシン場の仕事、

姿を写真等による紹介。(六)映

像コーナーⅡレーザーディスプレイ

クによる映像展示。ニシン漁

のしく、ためになる事柄をク

イズ形式で解説するプログラ

ム。・写真で見える神恵内村の

あゆみ、(七)行政のあゆみⅡ藩

政、幕政時代、戸長時代、二

級町村時代、地方自治時代、

現在と5つの時代に分けて、

行政を中心とした神恵内の歴

史を解説。(八)文化遺産Ⅱ川白

かぐら、しし舞を人体レプリ

カによって再現。(九)新しい神

恵内村、

観光Ⅱ西の河原を

始めとする村内の観光名所を

写真で紹介。・そだてる漁業

Ⅱ神恵内村の主産業である漁

業の現状を養殖漁業を中心に

写真や図表等で紹介。

・農業のあゆみⅡ農業開拓の



郷土資料館の展示の基本的な考え方は、古代から現代に至る、この地に住んだ人々の歴史とその文化遺産及び業績を紹介するとともに、それらを通じて見学者が、郷土「神恵内」を知り、学習する一歩を踏み始めておられます。

《神恵内村郷土資料館概要》

所在地・古宇郡神恵内村大字

神恵内村ブエダウス二七二

番地二

電話・〇一三五(七六)五一

四八

開館時間・十時～十六時

休館日・毎週月曜日(四月一

日～十月三十一日)但し七

八月は無休、十一月一日以

降は毎週日曜日

入館料・個人、大人一五〇円、

小人一〇〇円、団体(二〇

人以上)大人一〇〇円、小

人五〇円

交通案内・中央バス、岩内イ

神恵内線、青少年旅行村下

車、徒歩十五分

(神恵内村教育委員会)

社会教育主事・九十房孝和)

館園紹介

北海道立文書館

北海道立文書館は、昭和六十年七月十五日開館しました。文書館は「もんじょかん」と読みますが、わが国ではまだなじみが薄い存在かもしれませんが、都道府県レベルでは、十番目の文書館として開館したのですが、その後、府県立文書館が四館も誕生しています。もともと文書館、公文書館、歴史資料館などと名称がさまざまですが……。

さて、道立文書館は、北海道の歴史に関する公文書、私文書、その他関連する諸記録を収集整理して保存し、一般の利用に供する施設です。歴史的資料としての文書、記録を閲覧するのが、文書館の主な利用のしかたですから、博物館よりも図書館に近いかもしれません。じつ多くの文書館が図書館を母体として誕生しています。一方、博物館界では、古文書の博物館として文書館が位置づけられています。いずれにしても、欧

米とは限らず諸外国では、文書館は、博物館や図書館とともに文化施設の三本の柱の一つとなつています。

現在、道立文書館には約十八万点の資料を収蔵しています。文書は、一点一点の価値もさることながら、群としてまとまることによつて史料価値が一段と高くなります。とくに、安政年間から北海道庁成立期までの、開拓使を中心とした公文書が約一万一千冊、入植、開拓の経過がわかる国有未開地私下関係文書約九千五百冊、道東の実業家・政治家柳田藤吉家文書約五万点は、所蔵資料のうちの圧巻です。

これらの資料は、いずれも閲覧室でご覧に入れることが出来ます。年間、約三千七百人の人びとが閲覧にいられます。研究者、教員、市町村史の編集者、ライター、公務員、わが家のルーツさがしの人、学生、宿題をかかえた小学生まで、実に幅広い人びとが、終日、静かに古文書や記録を

ひもといています。文書館の資料は、ここで調査研究された成果——論文や市町村史や読物——によつて、さらに多くの道民（ばかりではありませんが）の手に届けられて行きます。来室者の数十倍、数



百倍の読者もまた、文書館の利用者といえるでしょう。

道立文書館の紹介には、いま一つの特色にふれる必要があります。いうまでもなく、文書館の庁舎となつている道庁赤れんが庁舎のことです。

明治二十一年に建てられた、この壮大な建物は、昭和四十三年、創建当時の姿に復元され、翌年、重要文化財に指定されました。

赤れんが庁舎自体が観覧の対象ですから、大勢の観光客、修学旅行の生徒が訪れ、いまや有力な観光コースの一つとなつていきます。

館内の廊下には、開拓使時代の歴史画が掲げられており、一種のギャラリーとなつていきます。年間十万人にのぼるといわれるこれらの観覧者のため、文書館としては特に展示室を広くとりました。建物とギャラリーと展示室、この部分は、まさしく博物館といえるかも知れません。ただ、「文書が語る北海道の歴史」と題した常設展示のねらいは、単なる北海道の通史の紹介では

なく、文書の収集、保存の意義や文書館の働きを広く理解してもらおうとするもので、あくまでも文書館としての展示という性格をくづしてはいけません。当館所蔵資料の開拓使文書を中心に、明治初年の道民の諸相を明らかにしていきます。また、ビデオボックスの一つは、古文書の読み方を放映しています。これなども、文書館の展示の特色でしょう。

「いま、赤れんがには歴史が見える」、そんな声も聞えてきそうです。

《北海道立文書館利用案内》
所在地・札幌市中央区北三条西六丁目赤れんが庁舎内
〇二一三三四二、内三三〇閲覧室、三三〇展示室
開館時間・九時三十分～十七時（土曜日は十二時まで）
休館日・第三木曜日、日曜日、祝日、年末年始
入館料・無料
交通案内・JR線「札幌」、地下鉄南北線「さっぽろ」下車徒歩四分

（北海道立文書館 普及閲覧係長・鈴江英一）

「北の円空・木喰展」

―江戸の遊行僧・祈りの造形―

北海道立旭川美術館の開館五周年を記念し、十月三日より十一月三日まで特別展「北の円空・木喰展」が企画され、その準備が進められています。円空（一六三三）と木喰（一七一八）は、ともに江戸時代に日本国内各地をめぐるが非常に多くの木彫仏を制作した遊行僧として知られている。江戸時代の仏像彫刻はみるべ

きものが少ないとされるが、円空・木喰の作品はそれぞれ際立って個性的、土俗的で、かつ力強い造形性をもち、近年高く評価されている。この二人の僧は、おのおの本州から津軽海峡を渡って来

道し、道南地方を歩いて多くの木彫仏を制作した。これらの地方では今も信仰篤く、大切に祀られているものが多い。今回の展覧会では、これらの

作品に加えて東北地方の初期の円空の作品も紹介され、初期円空および木喰の全容をうかがえる内容となるだろう。



（開館五周年を迎えた北海道立旭川美術館）



円空は岐阜県の生まれで、現在判明している最も初期の作品は、一六三三年、三十二歳の時に岐阜で制作されたものである。その後、円空が旅に出て東北から北海道に渡ったのは一六六六年、三十五歳の時である。滞道期間は一年あまりで、函館、松前から洞爺湖方面まで道南地方をまわり、各地で造像した。現在までの調査で道内に残されている円空仏は、本州で制作されたものを除いて四十一体を数える。また、東北地方には青森県、秋田県を中心に、北海道の円空仏と深いかわりをもつ初期作品が二十体以上残されている。これらの北海道・東北の初期作品は、坐像の観音、如来と立像の十一面観音を中心である。生硬な表情のものもあるが、ふくよかな



（円空「観音坐像」七飯町）

微笑をたたえ、初期独特の単純素朴で力強い彫りに大きな魅力がうかがえる作品が多い。木喰（木喰行道）は、山梨県の生まれである。四十五歳の時、木喰戒（火食を断ち、五穀以外の果実を食とする戒律）を受けて修業を始め、五十六歳の時、日本廻国修業の大願をおこした。仏像を制作しはじめたのは六十歳を過ぎてからとみられ、一七七八年、六十一歳で北海道に渡った時はじめて仏像を彫りはじめたとも考えられている。道南地方に残された作品は、現在までの調査で二十九体である。これらの作品は、後の作品のように微笑はたたえていない。稚拙ながらも素朴で、野太い味わいを持った作品群である。今回の展覧会では、北海道・東北の円空約五十体（本州で制作されたものも含む）、北海道の木喰約二十体、総計約七十体が紹介される予定。円空では福島町吉野教会や伊達市善光寺の観音坐像、弘前市西福寺の地藏菩薩像、男鹿市赤神神社の十一面観音像などがあ

《北の円空・木喰展案内》

会期・十月三日（土）～十一月三日（火）なお月曜日と十月十日は休館

会場・北海道立旭川美術館

電話・〇一六六一二五二五七七

観覧料・大人六百円（五百円）、

高大生四百円（三百円）、小

中生二百五十円（二百円）、

（ ）内は 十名以上の団体

および前売料金

（北海道立旭川美術館

学芸員・新明英仁）

この「北の円空・木喰展」

は、北海道立旭川美術館での

会期のうち、十一月十日より

十二月十三日まで北海道立函

館美術館での巡回展示が予定

されており（事務局）。

行事案内(六月～九月)

●北海道立近代美術館(二一)
 六月六日～二十八日生命(いのち)の群像・菊川多賀展、六月六日～八月九日第2期所蔵品展(画家と自画像)、六月十三日展示室講話(毎週土曜日)、六月十四日美術映画鑑賞会(毎月第二日曜日午後二時より)、六月二十一日菊川多賀展特別講座、七月四日～八月九日エルミタージュ美術館展、七月二十八日～八月九日サマー・ミュージアム'87、八月十五日美術講演会、八月十五日～九月十五日ガラスの美二五〇〇年、八月十五日～十月十一日第3期所蔵品展(バスキンとエコー・ド・バリ)

●北海道立旭川美術館(三〇)
 五月十二日～六月十四日所蔵名品展I期・絵画、六月二十日～七月十九日名品展II期・彫刻・工芸、七月二十五日～八月二十三日ヨーロッパ絵画の五〇〇年

●北海道立函館美術館(三三)
 六月十八日～二十日栗山町の獅子舞、七月二十日

十六日「第26回日本現代工芸美術展」、七月二日～八月二日「日本の名画二〇〇年展」、八月八日～九月二日「ピカソ展」、九月十二日～十月四日「古代エジプト展」

●北海道開拓記念館(二一)
 六月二日～二十一日「地球大紀行展」、七月四日～八月二十日第30回特別展「日本海」、七月二十五日～二十六日バス見学会「砂丘を訪ねる」、八月九日講座「郷土学習と博物館」、九月十日～十一月八日第31回特別展「岩手の風土と伝統産業」

●北海道開拓記念館友の会(二一)
 六月十四日～八月十三日「核」30周年記念展、四月七日～八月二十三日詩誌「核」

●札幌市資料館(三一)
 七月四日～八月三十一日特別企画展「消えた農具展」、七月十二日高山植物観察会、七月十九日天文観察会、八月六日～七日七夕の集い、八月十三日地形地質観察会、九月六日博物館等見学ツアー、九月十三日史跡めぐり、九月二十七日野鳥観察会

●北海道開拓の村(三一)
 六月十四日～八月三十一日特別企画展「消えた農具展」、七月十二日高山植物観察会、七月十九日天文観察会、八月六日～七日七夕の集い、八月十三日地形地質観察会、九月六日博物館等見学ツアー、九月十三日史跡めぐり、九月二十七日野鳥観察会

●札幌市立博物館(三三)
 七月四日～八月三十一日特別企画展「消えた農具展」、七月十二日高山植物観察会、七月十九日天文観察会、八月六日～七日七夕の集い、八月十三日地形地質観察会、九月六日博物館等見学ツアー、九月十三日史跡めぐり、九月二十七日野鳥観察会

●苫小牧市博物館(三三)
 七月四日～八月三十一日特別企画展「消えた農具展」、七月十二日高山植物観察会、七月十九日天文観察会、八月六日～七日七夕の集い、八月十三日地形地質観察会、九月六日博物館等見学ツアー、九月十三日史跡めぐり、九月二十七日野鳥観察会

十五日～三十一日水鉄砲づくり、八月一日～七日風車づくり、八月二日第5回開拓の村児童写生会、八月七日～七夕まつり、八月七日～九日郷土民話、八月九日野だて、八月十五日妹背牛町の郷土芸能、八月十五日～十六日開拓の村まつり、八月二十三日～九月一日紙すもうづくり、九月六日～十月十一日開拓の村児童絵画展、九月十三日長沼町の勇獅子舞、九月二十日秋のふるさとまつり、九月二十七日農作業体験

●国際染織美術館が再開館
 旭川の優佳良織工芸館に隣接する国際染織美術館は、昨年四月に開館された。新展示のため昨年十二月より休館していたが、展示替を終え四月一日より再開館しました。

●世界のガラス館オープン
 昭和新山のえぞ鹿牧場に隣接し、四月二十五日に開館。日本や世界各地のガラス製品

●受贈図書一覧(一)発行年月
 ◇フッドピア金沢No2◇名寄市郷土資料室展示解説書(61・7)◇北海道立函館美術館要覧(61・9)◇道イベント推進協イイベントと地域開発◇フッドピア金沢No3◇金沢食談手帖(61・11)◇アイヌ民族博・アイヌと野鳥I◇七飯教育資料室収蔵資料目録(61・12)◇白老民族文化伝承保存

●北海道開拓の村(三一)
 六月十四日～八月三十一日特別企画展「消えた農具展」、七月十二日高山植物観察会、七月十九日天文観察会、八月六日～七日七夕の集い、八月十三日地形地質観察会、九月六日博物館等見学ツアー、九月十三日史跡めぐり、九月二十七日野鳥観察会

●札幌市立博物館(三三)
 七月四日～八月三十一日特別企画展「消えた農具展」、七月十二日高山植物観察会、七月十九日天文観察会、八月六日～七日七夕の集い、八月十三日地形地質観察会、九月六日博物館等見学ツアー、九月十三日史跡めぐり、九月二十七日野鳥観察会

●苫小牧市博物館(三三)
 七月四日～八月三十一日特別企画展「消えた農具展」、七月十二日高山植物観察会、七月十九日天文観察会、八月六日～七日七夕の集い、八月十三日地形地質観察会、九月六日博物館等見学ツアー、九月十三日史跡めぐり、九月二十七日野鳥観察会

館園紹介

●国際染織美術館が再開館
 旭川の優佳良織工芸館に隣接する国際染織美術館は、昨年四月に開館された。新展示のため昨年十二月より休館していたが、展示替を終え四月一日より再開館しました。

●世界のガラス館オープン
 昭和新山のえぞ鹿牧場に隣接し、四月二十五日に開館。日本や世界各地のガラス製品

●苫小牧市博物館(三三)
 七月四日～八月三十一日特別企画展「消えた農具展」、七月十二日高山植物観察会、七月十九日天文観察会、八月六日～七日七夕の集い、八月十三日地形地質観察会、九月六日博物館等見学ツアー、九月十三日史跡めぐり、九月二十七日野鳥観察会

を展示し、ガラス工房の実演コーナーも設置されています。有珠郡壮瞥町字滝之町

札幌学院大学考古学

資料展示室がオープン

札幌学院大学A館一階に、「北海道の先史時代」をテーマとする展示室が四月二十五日にオープン。約五十点の考古学資料が陳列され、一般公開もされています。

江別市文京台2

〇一(三三六八)八一〇

高田屋嘉兵衛資料館再開

昨年七月に開設され十一月三日まで閉館。冬期間に資料整理され、四月二十八日再開されました。

函館市末広町13番12号

〇一三八(二七)五二二六

第三十五回全国博物館大会

十月に釧路市で開催

日本博物館協会による「第三十五回全国博物館大会」は、今秋の十月六、七日、釧路市婦人会館およびオリエンタルホテルを会場に開催されます。日本博物館協会加盟館を

はじめ、北海道博物館協会員、社会教育関係者など広く参加をお願いします。

これまで北海道で開催された全国博物館大会は、次の三回であり、今秋の釧路大会で四回目となります。

第五回釧路大会(昭31)

第十四回函館大会(昭40)

第二十回札幌大会(昭46)

大会日程：昭和六十二年十月

六日(火)～七日(水)

大会テーマ：未定

大会会場：釧路市婦人会館、オリエンタルホテル

大会参加料：六千円

大会参加定員：三百人

有委員会)

事務局日誌

4・13 第26回北海道博物館大会現地打合せ(増毛町教育委員会)

4・23 事務局会議(昭和62年度事業実施計画・第26回大会開催要領等)

4・28 シベリア・極東地区博物館視察研修旅行案内状発送

5・2 第26回大会後援・特別報告・講演・シンポジウム等協力依頼状発送

5・2 道教育長・増毛町長に大会補助金交付申請書提出

5・6 第26回大会挨拶・祝辞等依頼状発送

5・8 北海道ウタリ協会よりアイヌ民族文化財専門職員等研修会開催につき協力依頼

5・12 釧路市立博物館長澤四郎氏来訪(第35回全国博物館大会開催につき協議)

5・14 第一回役員会・第26回大会案内状、会費請求書発送

5・15 「道博協加入のおきそい」・「道博協ニュース」18号・「北海道における博物館園の現状と今後の課題」

・「第25回北海道博物館大会報告書」(会報No.27)発送

5・19 事務局会議(中川会長出席、第26回大会)

5・20、22 昭和61年度事業会計監査実施(岩内町郷土館・札幌市青少年科学館)

5・27 アイヌ民族文化財専門職員等研修会打合せ(道ウタリ協会)

5・30 第27回北海道博物館大会函館市開催につき協議(市立函館博物館)

新入会員

〈団体会員〉北海道立函館美術館(函館市五稜郭町三十七

一六)、北海道立文書館(札幌市中央区北三条西六丁目)、

彌永北海道歴史館(札幌市北区北十九条西四丁目)、札幌

グランドホテルメモリアルラ

イブライ(札幌市中央区北

一条西四丁目)、苫前町郷土

資料館(苫前郡苫前町字苫前)

〈個人会員〉木村栄ノ進

、為岡進

、庄崎之男

、高井隆夫

金田寿夫

〈賛助会員〉液化炭酸株式会社

札幌営業所(札幌市西区曙

五条五丁目一〇一二二)

道博協沿革メモ

歴代会長一覧

初代・武内収太(市立函館博物館長)昭36・6・2

二代・正富宏之(釧路市立郷土博物館長)昭42・7・12

三代・能島正一(小樽市博物館長)昭43・7・1

四代・工藤欣弥(北海道立美術館長)昭44・8・1

五代・犬飼哲夫(北海道開拓記念館長)昭46・7・2

六代・石川政治(市立函館博物館長)昭50・6・5

七代・中川敏(札幌市円山動物園長・札幌市円山動物園協会会長)昭52・6・9

道博協沿革メモ

◆団体会員負担金(会費)

昭和三十六年度より 一千円

昭和四十五年度より 二千円

昭和四十九年度より 三千円

昭和五十一年度より 五千円

昭和五十五年より 八千円

昭和五十八年度より 一万円

〔編集後記〕

道博協ニュース原稿として、各館園の行事予定や、特別展等の概要をお寄せ願います。